



2011 年度 事業報告書 会計報告書



タンザニア・タボラのイブリ・ヘルスセンターにて
外来を訪れた母子（撮影 宇田川泰寛）

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会

Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service
(JOCS)

目次

1. 今年度の歩み	1
2. 海外諸活動	5
2-1 海外派遣	5
(1) ネパール 細井さおりワーカー	5
(2) ネパール 植戸健次郎短期ワーカー	6
(3) バングラデシュ 宮川真一ワーカー	6
(4) バングラデシュ 山内章子ワーカー	7
(5) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	8
(6) バングラデシュ 乾真理子短期ワーカー	9
(7) タンザニア 倉辻忠俊シニアワーカー	10
(8) パキスタン 青木盛ワーカー	11
2-2 研修生・奨学金支援	13
2-3 災害救援復興支援	20
(1) バングラデシュ 洪水被災支援	20
(2) バングラデシュ 寒波被災支援	20
2-4 協働プロジェクト (プロジェクト・りとる)	20
3. 国内諸活動	21
3-1 国内活動全般	21
3-2 ワーカー育成プログラム	23
3-3 東日本大震災被災者支援	26
3-4 広報	27
3-5 募金	29
3-6 使用済み切手運動	29
3-7 JOCS 関西バザー	30
3-8 講師派遣プログラム	30
3-9 事務局見学受入	31
3-10 50周年記念事業	31
3-11 ネットワーク活動	32
4. 運営会議	33
4-1 第50回社員定期総会	33
4-2 理事会	33
4-3 運営協議会	34
4-4 委員会	34
4-5 公益社団法人への移行手続き	38
4-6 今後5年間の方向性策定	39
4-7 評価	39
5. 事務局	39
6. 一般会員・社員会員の現状報告	41
7. 2011年度の主な動き	41
8. 会計報告	44
貸借対照表	44
貸借対照表内訳表	45
正味財産増減計算書	46
正味財産増減計算書内訳表	48
財務諸表に対する注記	50
附属明細書	52
財産目録	53
公益目的事業会計 収支計算書	55
収益事業会計 収支計算書	58
法人会計 収支計算書	59
収支計算書総括表	61
収支計算書に対する注記	62
監査報告書	63
付録 2011年度出版物に掲載された記事の一部	65

1. 今年度の歩み

＜常務理事 畑野研太郎＞

今年度は、日本にとりましては本当に大変な年でした。それにもかかわらず、会員¹の皆様、支援者の皆様、ボランティアの皆様のあたたかいご支援・ご協力・祈りの心に支えられ、アジア・アフリカの人々と共に生きることを目指して活動を行うことができましたことを、心より感謝讃美申し上げます。

また、3月の東日本大震災で被災された方々への支援活動に対して、皆様から多大なご協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

2010年に創立50周年を迎えたJOCSは、2011年4月から、「公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会」としての歩みを、新理事会体制をもって開始いたしました。

今年度のJOCSは、2005年度に定めた「今後5年間（2006年～2010年）の方向性」をそのまま継続する決議のもと活動を進めてまいりました。その方向性とは、次のとおりです。

「平和を実現するものとしてのJOCS」JOCSは積極的に平和を実現するもの、赦しと和解を来たらせるもの、隔ての壁を取り除くものでありたい。

「JOCSの活動の今後5年間の焦点」今後5年間は特に女性と子ども、障がい者、少数民族、HIV感染者を対象とした活動に焦点を当てる。

「弱くされた人と共に生きることを喜びとするワーカー」ワーカーの人選においては、何よりも弱くされた人と共に生きることを喜びとする賜物を大切にします。

なお、今後の方針につきましては、新たな「今後5年間の方向性とそのアクションプラン」を策定すべく、2012年度にかけて協議を続けていくことにしています。これからも、アジア・アフリカからの様々な要請に応え、より一層の努力をもって、活動地の人々と共に生きる活動に取り組む所存です。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2011年度の特記すべき活動を以下に記します。

（1）海外諸活動

① ワーカー派遣：

今年度は、6名の長期派遣ワーカーがそれぞれの任地で以下の働きを行った。

ネパールの細井さおりワーカーは、親が刑務所に入っていて保護者のいない子どもたちが、安心して共同生活を送れる場所として設立されたホーム4カ所で、健康管理やカウンセリングを通じて子どもたち一人ひとりの成長を支えた。その後、9月には任期を終えて帰

¹会員：本報告書の中で特にことわりのない場合は、社員会員及び一般会員の皆様を指します。

1. 今年度の歩み

国した。

バングラデシュでは、宮川眞一ワーカーが、チャンドラゴーナ・キリスト教病院にて、新たに導入された内視鏡やエコーによる検査とその指導を行い、消化器疾患の診断技術向上に努めた。山内章子ワーカーは1月から第二期活動を開始し、マイメンシンの障がい者センターを中心に、障がいをもつ人々のリハビリや、現地スタッフの指導を再開した。新たな活動地の開拓や草の根で働く現地スタッフの知識・技術の更なる向上に取り組んでいる。岩本直美ワーカーは、ラルシュ・マイメンシン・コミュニティで、知的ハンディをもつ人々のためのホーム3カ所の運営に携わり、現地スタッフの養成、デイケアやワークショップなどのプログラムの管理、現地NGOとしての組織体制の立ち上げおよび育成などを行った。11月に任期を終了して帰国した後、各地で報告会を行った。

タンザニアの倉辻忠俊シニアワーカーは、小児医療と記録・統計に関する指導を通じて母子保健の向上に取り組むと同時に、現地の教会が運営する医療ネットワーク組織の強化に取り組んだ。

パキスタンの青木盛ワーカーは、10月よりファイザラバードの聖ラファエル病院での第二期活動に着手し、自ら意志を表すことのできない最も小さな命である重症の新生児の生命を守る診療や乳幼児の救急医療にあたっている。

また、短期ワーカーは2名派遣された。楢戸健次郎ワーカーは、1カ月半、自身が長く関わってきたネパールの山村の病院で、運営の改善や公衆衛生活動への助言を行った。乾眞理子ワーカーは、バングラデシュの農村部の、草の根の最先端にある診療所に年間2回（各3カ月）派遣され、糖尿病を含むあらゆる病を負う患者の治療や入院病棟での診療、ごみ処理対策等の業務改善に努めた。

② 奨学金支援：

アジア・アフリカ諸国では、特に貧しい草の根の人々の間では、まだまだ保健医療従事者の数が非常に不足している。また、病院のスタッフの多くは、ごく基礎的な勉強を終えただけで実務に就いているが、彼らが更なる研修を受けて知識・技術を深めたくとも、それは経済的に困難であることが多い。

JOCSの奨学金は、そのような状況を少しでも改善し、アジア・アフリカ現地の保健医療従事者を育成することを目的としている。選考の際は、研修修了後は所属団体に戻って勤務し、地域の保健医療向上に取り組みたいという人材を選ぶように努め、彼らが自分たちの力で自国の人々の健康を守れるようになることを長期的な目標としている。

今年度は、新規受給者・継続者を合わせ、インド、インドネシア、ウガンダ、ネパール、バングラデシュ、タンザニアの86名が研修するのを支援した。近年では、多くの元JOCS奨学生が病院の指導者や中堅スタッフとして活躍するようになっており、奨学金制度が実を結んできているのを実感できるようになった。

③ 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）（Project “LITTLE” = “Living together with the people”）

「プロジェクト・りとる」とは、アジア・アフリカの NGO と JOCS が協力してプロジェクトを立案し、現地 NGO が主体となって活動を進め、JOCS はそれに対する資金技術協力を行うという新たな事業形態である。上記のワーカー派遣・奨学金支援に加えて、JOCS の活動の第三の柱として育てていきたいものと考えている。

2010 年度から、最初のプロジェクトとして、バングラデシュでの「学校保健教育プロジェクト」が始まった。相手先団体である「BDP (Basic Development Partners)」と協力して、「学校での保健教育が生徒の健康・栄養状態を改善し、生徒の健康に対する意識の向上を通して、生徒の家庭を含む地域全体の保健衛生状態が向上する」ということを目的に掲げている。今年度は、保健教育担当教員のための講習会、指導カリキュラムや教材の作成、思春期女子生徒に向けての授業、身体測定、健康診断などを行った。

（2）国内諸活動

当会の目的は、海外の保健医療事情向上ではあるが、過去においても「阪神淡路大震災」の時には、避難所での巡回診療活動に加え、仮設住宅の高齢者ケア等を数年にわたり継続した経験がある。今回の大災害にあたっては、私たちに連なる人材や東北地方の諸団体とのつながりをできる限り活かして被災地の方々に寄り添い、復興のお手伝いをさせていただければと、震災直後から仙台や釜石での活動を続けてきた。具体的には、ワーカー・元ワーカーや日本キリスト者医科連盟の協力により避難所での診療を行った他、現在も仮設住宅や在宅被災者への訪問ケアのための看護チームの派遣や、心のケア活動へのカウンセラー派遣（カリタス釜石の協力を得て）、日本基督教団東北教区被災者支援センターを支える東北教区センター・エマオのスタッフの人件費サポートといった活動を続けている。

国内でのイベントとしては、昨年度に引き続き、50 周年記念事業として「みんなで生きる」表紙写真展、チャリティ映画会、スタディツアーなどが開催された。

また、日本と海外の子どもたちのつながりを深めることを目的として、青山学院初等部の宗教プロジェクトの皆さんと共に、ワーカー赴任地の保健医療事情を学ぶワークショップを行った。今後も各地で同様のワークショップが開催できるようにと願っている。

地区 JOCS は、11 月の「地区全体ミーティング」にて、課題や今後の取り組みについて協議する機会を持った。また、今年度も一年を通じて各地区でコンサートやワーカー報告会などのイベントが行われ、多くの方々に JOCS の働きについて知っていただく良い機会となった。

使用済み切手運動に関しては、初の試みとして「国際協力切手まつり」の開催地を公募したところ、北海道で初めての切手まつりを開催することができた。

海外保健医療協力に関心をもつ方々のためには、ワーカーを講師に迎えてのセミナーと、勉強会を企画した。近年は、講義型ではなくフィールドを訪問する形式の勉強会の人気が高い。このような学びの場に熱心に参加してくださる方々との出会いに感謝し、そのなか

1. 今年度の歩み

ら、今後 JOCS ワーカーや JOCS を支える人材となるような方々が育つことを期待してやまない。

3. 運営会議、事務局

第 50 回社員総会が 4 月に開催され、2010 年度決算報告と定款変更が決議された。その他、2010 年度事業報告、2011 年度事業計画、2011 年度収支予算などについての報告があった。

公益社団法人への移行に伴い、9 名の理事による新しい理事会が発足し、11 回の理事会と 2 回の運営協議会が開催された。新「今後 5 年間の方向性」や今後のワーカー派遣、被災地での活動などについての議論が重ねられた。また、2 月から 3 月にかけて、来期に向けて理事改選のための投票が行われた。

今年度も、多くのボランティアの皆さんが JOCS の活動を支援してくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 海外諸活動

[2-1] 海外派遣

(1) ネパール・ワーカー 細井さおり（看護師）

派遣先：PFN（Prison Fellowship Nepal）

8月末で3年間の活動任期を終了し、帰国した。行政側から受刑者とその家族を取り巻く環境改善への取り組みは見られず、刑務所内に定員を超える受刑者が詰め込まれている環境や、その子どもたちへの無関心は続いている。しかし受刑者に福音を届け、子どもたちを励まそうと、多くのネパール人ボランティアや教会の努力があった。

① 「平和を愛する子どもたちの家」での活動

- 1) 子どもたちと共に過ごし、喜びや悲しみを共有することを最も大切にした。川へピクニックに行くなど、子ども時代に必要な幸せな思い出づくりも共にした。身寄りのない子どもには訪問者がいないので、日本からのゲストにはホームへの訪問を依頼した。みな喜んで来てくださり、子どもたちは楽しい時間を過ごせた。特にイラストレーターの金斗鉦さんが皆の似顔絵を描き始めるととても喜んでいた。



ホームの子どもたちと細井ワーカー

- 2) 思春期を迎える子どもをより客観的に理解できるように、カトマンズの他施設で育った経験をもつ青年たちの協力を得、「施設で育つ子どもの実態調査」を始めた。
- 3) 受刑者の子どもが貧しさの連鎖から逃れるために、善を愛する感情を育み自立できる力を伸ばせるように、一人ひとりの個性や可能性の良き理解者になれるように努め、学習習慣を大切に、進んで楽しく勉強に取り組むことができるように側に寄り添い励ました。
- 4) 子どもたちの健康管理、疾病時の対応や薬等の指導、必要があれば病院へ運んだ。子どもが HIV に感染している場合の対応など PFN スタッフと意見の隔たりがあり、理解を求めた。
- 5) 施設の子どもたちが健全に児童少年期を過ごすためには、子どもを愛し生活習慣や家庭学習などを見守る大人たちの安定が欠かせない。子どもと直接接するスタッフの理解に努め、より良く子どもたちと関わるができるように励まし協力した。彼らの働きが正しく上のスタッフに伝わるよう気を配った。

② PFN 全体の活動をスタッフと共にすすめる

PFN は今年度も技能訓練施設の設置から中央刑務所でのダニの大量発生の対策に到るまで、本来刑務所が行う受刑者に対する活動の一端を担っている。受刑者の自立支援目的として各地の刑務所内図書室設置も継続された。その一つとして、今年は楢戸ワーカーが派

2. 海外諸活動

遣されているチョウジャリ病院スタッフの協力を得、近くにあるジャジャルコット刑務所にも図書館を設置できた。

(2) ネパール短期ワーカー 榎戸健次郎 (医師)

派遣先：HDCS (Human Development and Community Services)

9月から10月にかけて短期派遣ワーカーとして45日活動した。

① チョウジャリ病院、公衆衛生活動

2010年着任したプルナ氏(公衆衛生主任)を中心に院内、院外とも積極的に活動の輪を広げた。院内待合室にテレビを設置、公衆衛生のビデオを外来時間帯上映。乳児健診、予防接種、妊婦検診、保健指導に力を入れる。地域では、お祭り・巡回診療時に公衆衛生キャンペーンを行う。地域の保健指導者(婦人ボランティア、学校教師、保健所職員)を集めての公衆衛生の学習会を頻回もつ。

② チョウジャリ病院

2人のネパール人医師への診療応援、助言。約3カ月チョウジャリ病院で整形外科手術を積極的に行ってくれた整形外科医・森先生、また、その手助けをしてくれた山本看護師の環境整備。病院を円滑に運営するため事務局への助言指導。



診療にあたる榎戸ワーカー

(3) バングラデシュ・ワーカー 宮川眞一 (医師)

派遣先：CHC (Christian Hospital Chandraghona)

自身の日本での病気療養を終え、2011年3月よりCHCに復帰したが、6月に再検査などもあり当地での活動は時に中断された。病院内の活動が主となり、地域医療の活動にはほとんどタッチできなかった。

① 病院・診療業務

1) 病棟業務：内科系医師は私を含め3名となり、毎朝の回診も現地医師が1名は参加するようになった。立場的にはスーパーバイザーに移行。複雑症例のコンサルテーション及び担当は継続。しかしながら、現地医師が責任回避的に担当を要請することが多く、教育的に共診することは難しい。病棟ペインクリニック(主に神経ブロック)を継続した。

- 2) 外来業務：週 1 回のメタボリッククリニック（専門外来）を継続。休養中に現地医師に担当患者が移行し、外来担当数は減少した。現地医師が国内での糖尿病研修を受けたこともあり、徐々に自信を持ちつつある。
 - 3) 医療機器等整備：血糖測定器を内科 2 病棟と産科病棟に各 1 個ずつ配備し、病棟管理とした。2つの患者モニターは、病院予算が出ず、修理不能のため心電図のみ使用可。その他の医療機器も、メンテナンスがなかなか徹底されない。救急ボックスの機器・薬剤は固定担当ナースを決めることで、維持されている。
 - 4) 検査業務：日本の草の根無償援助で導入された上部消化管内視鏡検査のシステムを構築した。週 1 日を検査日として腹部エコー検査も並行して担当した。検査日以外の依頼も徐々に増え、内科・外科診断のレベルは向上した。周辺クリニックからの検査依頼も増加している。特に内視鏡検査では、検査同意書の作成・検査時マニュアル（病棟用・検査室用）を作成し、患者さんへの声かけなど、総合的な教育を行った。腹部エコー検査については、各医師に研修に来るよう呼びかけているが、内科医 1 名が 2 回来たのみである。技術移転が今後の課題である。
 - 5) 救急業務：複雑症例のコンサルテーションを受けている。
- ② 地域保健医療：病院内業務がメインとなったため、進展状況の情報収集のみに終始した。
- ③ 医療廃物問題：私がオブザーバーとなり、責任者（委員長など）を選出した後「病院環境委員会」は 1 回開催されたのみである。a) 病棟内分別、b) 感染性物質の処理徹底、c) システム履行、d) 焼却施設・周囲の環境は維持されている。
- ④ 教育：看護学生にベッドサイドにてケーススタディを実施。
- ⑤ ツアー受け入れ：NGO・学校・個人の訪問を可能な限り受け入れた。



看護学生への指導

（4） バングラデシュ・ワーカー 山内章子（理学療法士）

派遣先：マイメンシン テゼ共同体

2012年1月9日まで第一期フェロー。2012年1月10日より第二期赴任。

- ① PCC (Protibondhi Community Centre、旧名称 CCH)
 昨年 10 月に始まった CP (Cerebral Palsy、脳性麻痺) デイケアの評価とサポートを開始。
こうしんこうがいれつ
 口唇口蓋裂の術前術後言語訓練の準備を始めた。担当スタッフを決め、発音表、評価用紙の作成、対象児のリスト作りまで行った。
- ② PCC ムクタガチャ支部

2. 海外諸活動

昨年4月に場所を移転した。10月から11月にかけて、PCCのスタッフがデイケアのオープンにかかりきりになり、ムクタガチャ支部は一時的にセラピーがクローズになった。11月に担当事務員の強制解雇。その後リハビリテーションに来ている子どもの名簿が作成されていないことが発覚し、50人の対象児が現在支部から離れてしまった。子どもたちを探す方法を検討中。



子どもとその母親と一緒にリハビリをする山内ワーカー

③ Kailakuri Clinic

月1回のペースで訪問。担当理学療法技術者ミンハースと、カイラクリにおける理学療法の今後の可能性について話し合いをしている。

④ SMSM Sisters

2月に最初の訪問。2012年度に石本馨短期ワーカーが赴任するため、その事前準備と共に、山内の今後の関わりについて調整を行った。

2011年度も、主の目がわたしたちの活動に触れてくださったことを感謝いたします。

(5) バングラデシュ・ワーカー 岩本直美 (看護師)

派遣先：テゼ共同体 (ラルシュ マイメンシン・コミュニティ)

① 組織運営

1) ラルシュ・マイメンシンの理事の養成

新しい理事たちに「ラルシュの理事の役割」について、知っていただくことに努めた。イタリアやフィリピンでの理事養成プログラムへの参加、また理事会マニュアルなどを使っての養成プログラムも実りがあった。

2) 会計兼事務担当者の養成

会計士として長い経験のある人を迎えたが、国際ラルシュ連盟から求められる報告文書作成などには十分対応できず、そのサポートのためにわたし自身の仕事量が増える結果となった。会計の人選は大変難しいため、試用期間を延長し様子を見ている。

3) 専門家との連携

障がいを持つメンバーたちの予測出来ない行動や暴力、またコミュニティ内での感染予防等について悩むことが多く、外国の専門家や経験者に助言を請うことが多かった。インドから専門家の継続した短期派遣を試みたが、ビザ等のために実現しなかった。

4) 運営費の支援

バングラデシュ国内からの支援を求めて製薬会社等を廻ったが反応は乏しく、具体的

な支援を受けるまでには至らなかった。理事会と共に更なる努力を必要とする。

② コミュニティ運営

1) コミュニティの覚書（2011年～2016年）

コミュニティメンバー皆で、絵や写真等を使って時間をかけて話し合い、今後5年間のコミュニティの具体的な達成課題（組織管理、アシスタントの養成、一致を生きること及び霊性等14項目について）を明確にした。今年度はその内3つの優先課題（会計兼事務担当者の採用や給与に関する基本方針など組織管理に関する質の向上、コミュニティにおける各ミーティングの目的の明確化と質の向上、障がいを持つメンバーの個々のニーズや賜物に沿った生活の質の向上について）を選び、取り組んだ。

2) コミュニティカウンスルとリーダーの養成

コミュニティ運営の意思決定機関である、コミュニティカウンスルの職責と権限の明確化に努め、また家やプログラムを担当する5名のリーダーたちの職責と権限を更に強めた。これによりメンバーたちが、コミュニティを自分たちが運営しているという自覚を深めることができた。

3) 障がいを持つメンバーたちの支援と関係性の質

障がいを持つメンバーたち個々の具体的な目標を明確にすることで、成長と変化はみられた。しかしアシスタントたちが、何を意図しどのように関わることが必要なのかについて意識化するところが弱かった。また障がいを持つメンバーを対等な個性として見る感性が希薄な部分があり、一人ひとりの人生史について学ぶことに努めた。



コミュニティの子どもたち

4) アシスタントの養成

生活の中で経験によって多くを学んでいるアシスタントたちが、正しい知識と理解によりその経験の意味を洞察し意識化できるように、分かち合い、書き、伝えるという作業を多く取り入れた。確かな変化は認められたが、更に何年も時間が必要である。

（6） バングラデシュ短期ワーカー 乾真理子（医師）

派遣先：カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（Kailakuri Health Care Project）

バングラデシュの田舎にある「カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト」で活動した。Ⅰ期2011年6月～8月、Ⅱ期2011年10月～12月。医師は責任者の1名のみで、スタッフとして村の人たちが、貧しい人たちを対象にプライマリ・ヘルスケアを提供しているプロジェクトなので、とくに医療面でスタッフ



カイラクリ・クリニックの所長や
現地スタッフと共に

2. 海外諸活動

を支援した。

① 診療部門

入院患者さんの状況把握に努め、問題があればスタッフと協議した。スタッフから依頼された入院・外来患者さんを一緒に診察、診察所見共有、カルテ記入、アドバイス。症例によってはメールで日本人医師に相談、アドバイスをスタッフに伝達。システム整備として、「検尿容器」リユース、皮膚潰瘍用「イソジンシュガー」調剤、X線写真用「シャーカステン」設置など。

② プロジェクト全体

プロジェクト経営に関する様々な問題にも、可能な範囲で関わった。構内に出るゴミの処理について働きかけて実現。

③ 日本への情報発信

ブログでカイラクリの人たち（スタッフや患者さん）を紹介。

④ スタッフや村の人たちとの交流

村の生活を知るため、招待に応じて家庭訪問した。

(7) タンザニア・シニアワーカー 倉辻忠俊（医師）

派遣先：タボラ大司教区保健事務所、イプリ・ヘルスセンター

タンザニア連合共和国のタボラ大司教区保健部に所属し、保健医療に恵まれない人々も適切な医療サービスを受け、健康でより安心した生活を享受できるようになることを目標に活動を行っている。医療研修を前年度に引き続き行った。4月後半から、週3日を保健事務所で、3日をイプリ・ヘルスセンターで活動した。



イプリ・ヘルスセンターで診療する
倉辻ワーカー

① ンダーラ病院研修

病院は50年前にオランダの修道会が創始し、現在150床の農村牧畜地域の中核病院である。周辺の住民の他、僻地の簡易診療所やヘルスセンターからの紹介患者を対象にしている。小児病棟を中心に診療に携わりつつ、タンザニアにおける医療の実際を学んだ。毎朝のカンファレンスでは、子どもの難しい病気の診断・治療・予防の指導、時間外に過去6ヵ月の診療記録を基に医療分析を行い、疾病構造の分析と医療の問題点を掘り起こしてまとめ、今後の活動の参考として報告書を病院に提出した。余暇に診療用語と言い回しを採集し、スワヒリ語の医療辞書を作成した。

② 大司教区保健事務所

大司教区傘下10の保健医療施設の医療管理に協力した。

- 1) 各施設から3ヵ月毎の医療データを収集・分析・評価してフィードバックし、また1年間（1～12月）の記録を分析し、州保健局を始めとする関連施設に報告した。
 - 2) 四半期毎に目的を定めて全施設を巡回して監視・指導を行った。今年度は診療記録、プライマリケア、在庫管理を目的とした。
 - 3) 官民協力（PPP）の促進：保健医療はPPPの対象となっており、人事、予算の有効活用の指導、医療現場からの州保健局へ提案を行った。最大の課題はHIV検査キットのリコール問題で、日本の薬害エイズの二の舞にならないよう対策の即時実施を要請した。
 - 4) 保健医療セミナー：小児疾患のプライマリケアを医師補、看護師、看護助手を対象に2日間実施した。
- ③ イプリ・ヘルスセンター
- 都市部と農村牧畜地域の境界に位置する、南インドの修道女会が創始した40床の診療所で、PPPの一環として医師、助産師の2名が政府から派遣されている。コンサルタント医師として小児医療を中心に診療協力を行った。病棟・外来での診療時指導の他、週1～2回マラリア、栄養失調、肺炎、急性下痢症など日常多い疾患と、死に至る可能性のある重症疾患の診断と治療・予防をカンファレンスで指導した。

（8） パキスタン・ワーカー 青木盛（医師）

派遣先：聖ラファエル病院（St. Raphael's Hospital）

2011年10月4日から、第二期の活動を開始した。

① 聖ラファエル病院での業務

1) 外来

- ・小児科を担当。
- ・月曜から土曜（11～14時）、その他時間外の診察を行った。
- ・多い疾患は肺炎、気管支炎、下痢、脳性麻痺、神経筋疾患など。
- ・小児以外に病院スタッフ、助産師学校の学生への処方を行った。

2) 小児の入院

- ・月数名（肺炎、下痢等）

3) 新生児室

- ・1日3回の回診と病的新生児の治療を行った。



新生児を診療する
青木ワーカー

2. 海外諸活動

<赴任後の統計>

	分娩数	経膈分娩	帝王切開	早産児	低出生体重児
2011年11月	151	77	74	31	19
2011年12月	164	63	101	41	27
2012年1月	147	58	89	30	14

	他院へ搬送	院内死亡	人工呼吸器を使用した新生児数
2011年11月	0	0	1
2011年12月	1	6	2
2012年1月	1	4	5

人工呼吸器を使用した新生児の転帰

	生存	死亡	他院紹介	合計
IMV	0	1	0	1
N-CPAP	7	0	0	7
N-CPAP + IMV	0	0	0	0
	7	1	0	8

IMV : Intermittent Mandatory Ventilation 間歇的強制換気

N-CPAP : Nasal Continuous Positive Airway Pressure 経鼻持続陽圧換気

- ・死亡原因は早産児（特に在胎28週未満）、超低出生体重児、新生児仮死、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、敗血症、先天異常など。

[2-2] 研修生・奨学金支援

2011年度に支援した奨学生は、インドネシア 15名、ネパール 22名、バングラデシュ 4名、インド 5名、ウガンダ 28名、タンザニア 12名の合計 86名である。詳細は2011年度研修生一覧（14～19ページ）参照。

2. 海外諸活動

インドネシア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Frits Lexi Meinker Mojai	男	23	学生	GKST	SAM Ratulangi University	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Mardianus Tado'u	男	25	薬局スタッフ	GKST	Samratulangi University, Manado	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Feby Francis Parewa	男	36	看護師	GKST	Public Health Center (Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Alice Sumalia	女	30	看護師	GKST	Public Health Center (Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Ita Oktaviaty Pasambaka	女	37	看護師	GKST	Public Health Center (Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Linije Tambayong	女	35	看護師	GKST	Public Health Center (Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Mastria Renias Mentiri	女	48	看護師	GKST	Public Health Center (Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Ferderika Amtiran	女	30	看護師	GKST	The Institute of Medical Science	看護学	2009年9月 ~ 2011年8月
Mr. Panca D. Dese	男	44	看護主任	GKST	STIK Central Java, Yogyakarta, Bethesda	看護学修士	2011年9月 ~ 2014年8月
Mr. Iver Sudipi	男	25	看護師	GKST	PGI Cikini Hospital	外科マネージメント	2011年9月 ~ 2011年12月
Ms. Sri Prihatin Suman	女	38	看護師	GKST	PGI Cikini Hospital	脳卒中治療	2011年10月 ~ 2011年11月
Ms. Ferderika Amtiran	女	30	看護師	GKST	STIK Indonesia Jaya, Institute of Medical Science	看護学修士	2011年11月 ~ 2012年10月
Ms. Katrina Nono	女	32	薬局スタッフ	ICAHS Lindimara Hospital	Politeknik Kesehatan Kupang	薬学	2010年6月 ~ 2013年5月
Ms. Ike Pebriana	女	30	看護師	ICAHS Mardi Walojeja Hospital	Politeknik Kesehatan Malang, Malang, Jawa	看護学	2008年9月 ~ 2011年3月
Ms. Yetty Wahyu Kirmiawati	女	33	看護師	ICAHS Mardi Walojeja Hospital	Politeknik Kesehatan dr. Soepraosen Hospital	助産学	2008年9月 ~ 2011年8月

ネパール

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Jaganath Maharjan	男	40	理学療法士助手	Anandaban Hospital	Doon Paramedical College and Hospital	理学療法	2010年7月 ~ 2015年1月
Dr. Min Bahadur Thapa	男	40	医師	Anandaban Hospital	Kathmandu University	放射線診断	2010年9月 ~ 2013年8月
Ms. Jayanti Kumari Niroula	女	38	看護師	Anandaban Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2011年11月 ~ 2013年10月
Mr. Maheshwor Gosain	男	31	医学生	HDCS	Nepalgunj Medical College	医学	2007年2月 ~ 2011年8月
Mr. Tilak Bahadur Kumar	男	32	地域保健・公衆衛生	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaipal Health Academy, Nepalgunj Bank Nepal	公衆衛生補助	2010年9月 ~ 2013年9月
Dr. Kalebu Kumar Budha	男	28	医師	HDCS Chaurjahari Hospital	National Academy of Medical Sciences	小児医学	2011年9月 ~ 2014年9月
Mr. Chandra Giri	男	41	薬局スタッフ	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaipal Health Institution	薬学	2011年9月 ~ 2014年9月
Mr. David Thagunna	男	28	検査技師	HDCS TEAM Hospital	Bharatpur School of Health Sciences	検査技師	2009年11月 ~ 2012年11月
Mr. Kapil Presad Jaishi	男	39	事務	HDCS Chaurjahari Hospital	National Open College	公衆衛生	2011年12月 ~ 2014年11月
Mr. Amar Singh Bahat	男	24	検査技師助手	HDCS TEAM Hospital	Kalitpur Institution of Health Science	放射線学	2010年9月 ~ 2012年9月
Ms. Karna Rai	女	30	看護師	HDCS TEAM Hospital	Yeti Health Science Academy	看護学	2011年1月 ~ 2013年1月
Ms. Kalpana Silwal	女	32	看護教師	Lalitpur Nursing Campus	Tribhuvan University, Institute of Medicine	看護学修士	2010年12月 ~ 2012年12月
Ms. Ratna Kumari Maharjan	女	42	看護師	Patan Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2010年7月 ~ 2012年7月
Ms. Bimala Karti	女	42	准助産師	Tansen Nursing School	Tansen Nursing School	看護学	2010年9月 ~ 2013年9月
Ms. Apsara Gurung	女	24	准看護師	Tansen Nursing School	Hope International College	看護学	2011年1月 ~ 2013年1月

2. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Monima Chaudhary	女	23	教師	Tikapur Christiya Mandali Church	Nepalgunj Nursing Campus	看護学	2009年12月 ~ 2012年12月
Ms. Asha Rawal	女	17	看護師	Tikapur Christiya Mandali Church	Far-West Technical College	看護学	2010年9月 ~ 2013年9月
Mr. Ankit Raj Gurung	男	22	学生	UMN	Nepalgunj Medical College	医学	2009年8月 ~ 2013年2月
Mr. Bikram Thapa Chhetri	男	37	理学療法士助手	UMN Tansen Mission Hospital	Dhulikhel Medical Institute, Katmandu Univ.	理学療法	2009年7月 ~ 2011年11月
Ms. Nirmala Sherestha	女	30	准看護師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護学	2009年9月 ~ 2011年9月
Ms. Kumari Maya Thapa Magar	女	45	助産師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護学	2009年10月 ~ 2012年10月
Ms. Sumitra Karki	女	31	看護師	UMN Tansen Mission Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2009年12月 ~ 2011年12月

バン格拉デシュ

Ms. Khanam Monira	女	34	ファイールドワーカー	CCH	Community Handicap and Disability Resource Person	障がい者支援	2011年4月 ~ 2011年10月
Ms. Chanpa Das	女	20	無職	Mahamuni Bidhaba-O-Anath Sishu Kalyan Kendra	Christian Hospital Chandraghona	看護学	2010年1月 ~ 2013年1月
Ms. Mormu Silvia	女	23	修道女	PIME Sisters	Red Crescent Nursing Institute	助産学	2011年2月 ~ 2012年8月
Ms. Tripura Maria	女	22	修道女	PIME Sisters	Green Life Medical College	看護学	2011年2月 ~ 2014年2月

インド

Ms. Paripooranam Pounraj	女	20	無職	Christian Fellowship Hospital	Christian Fellowship Hospital	医療記録管理	2009年7月 ~ 2011年7月
Mr. David Livingstone J.	男	19	無職	Christian Fellowship Hospital	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2009年9月 ~ 2014年9月
Ms. Sathya Priya Muniandi	女	19	無職	Christian Fellowship Hospital	Sarah Nursing College	看護学	2009年9月 ~ 2013年9月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Joshua Paul	男	19	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College, Vellore	臨床検査技術	2010年7月 ～ 2014年7月
Ms. Mariammal Andavan	女	18	学生	Christian Fellowship Hospital	Sankaralingam Bhuvanawari College of Pharmacy	薬学	2010年7月 ～ 2012年7月

ウガンダ

Ms. Keronyai Pauline Picho	女	31	看護師	Reach Out	Aga Khan University Uganda	看護学	2009年8月 ～ 2012年2月
Mr. Olwa James Kamara	男	53	クリニカルオフィサー	UPMB Amai Community Hospital	Kampala International University	臨床医学・地域保健	2008年4月 ～ 2011年4月
Ms. Uwimbabazi Sarah	女	25	准看護師	UPMB Bwindi Community Hospital	Kabale School of Comprehensive Nursing	看護学	2010年5月 ～ 2011年11月
Ms. Kyomugisha Brenda	女	25	薬局スタッフ	UPMB Bwindi Community Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	看護学	2011年5月 ～ 2012年11月
Ms. Komukama Annet Sanyu	女	34	看護師	UPMB COU, Kisizi Hospital	Health Tutors' College Mulago	看護学教員	2010年10月 ～ 2012年10月
Mr. Davis Makubuya	男	27	検査助手	UPMB Cure (Children's Hospital of Uganda)	Medical Laboratory Training School, Jinja	検査技師	2009年10月 ～ 2011年10月
Ms. Scovia Kissa	女	27	看護師	UPMB Cure (Children's Hospital of Uganda)	Masaka School of Comprehensive Nursing	看護学	2010年5月 ～ 2011年11月
Ms. Nowerina Biira	女	23	看護ボランティア	UPMB Kinyamaseke Health Center III	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2009年5月 ～ 2011年11月
Ms. Kiisa Juliet	女	27	准看護師	UPMB Kinyamaseke Health Center III	Kagando School of Nursing	看護学	2011年5月 ～ 2012年11月
Ms. Immaculate Prosperia Naggulu	女	39	看護教師	UPMB Kiwoko Hospital	International Health Science University	看護学	2009年9月 ～ 2012年9月
Mr. Masete Jacob Wepukhulu	男	28	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ～ 2011年11月
Mr. Nsumba S. Mark	男	27	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ～ 2011年11月
Ms. Ritah Nabasumba	女	27	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ～ 2011年11月

2. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Yiga Rehemah	女	37	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2011年5月 ～ 2012年11月
Ms. Angolikin Hellen	女	32	准助産師	UPMB Kumi Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2011年5月 ～ 2012年11月
Ms. Maraka Lucy	女	36	准助産師	UPMB Kumi Hospital	Jinja School of Nursing and Midwifery	助産学	2011年5月 ～ 2012年11月
Mr. Lubaale Robert Musasizi	男	26	検査技師助手	UPMB Lugazi Mission Health Centre	Worldwide University College	HIV/AIDSカウンセ リング・検査	2010年9月 ～ 2012年9月
Ms. Edith Catherine Kasembere	女	36	准助産師	UPMB Mengo School of Nursing	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2010年5月 ～ 2011年11月
Ms. Gladys Bwambare Kabugho	女	50	助産師	UPMB Nabugando Health Centre	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ～ 2011年11月
Mr. Muyanja Andrew	男	25	検査技師	UPMB Nateete Archdeaconry Mobile Clinic	Mbarara University of Science and Technology	検査技師	2010年8月 ～ 2012年8月
Mr. Odoch Wilfred	男	27	看護師	UPMB Nebbi Church of Uganda Diocese	Mulago Paramedical School	麻酔学	2010年9月 ～ 2012年9月
Mr. Arinaitwe Edson	男	28	検査技師助手	UPMB Ruharo Mission Hospital	Mbarara Medical Laboratory Training School	検査技師	2011年6月 ～ 2013年6月
Mr. Kighoma Josphat	男	23	検査技師補助	UPMB Rwesande Health Centre IV	Mengo Hospital Laboratory and School of Medical Laboratory Technology	検査技師	2010年8月 ～ 2011年8月
Mr. Gideon Bwambale	男	32	看護助手	UPMB Rwesande Health Centre IV	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ～ 2013年5月
Mr. Abraham Bwambal	男	32	地域青少年保健 ワーカー	UPMB South Rwenzori Diocese	Ernest Cook Ultrasound Research and Education Institute, Kampala	放射線学	2007年9月 ～ 2011年6月
Mr. Yonah Kinyonyi Munyaha	男	41	看護主任	UPMB South Rwenzori Diocese	Uganda Christian University, Mukono	看護学	2008年1月 ～ 2011年12月
Mr. Kabugho Phedrace	男	25	看護助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ～ 2012年11月
Ms. Kighina Mbambu Alice	女	31	検査技師助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kasese Institute of Health Science	検査技師	2010年6月 ～ 2012年6月

タンザニア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Bertha John Makoye	女	22	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年9月 ～ 2013年9月
Mr. Paschal Peter Mashimi	男	23	検査技師助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
Mr. Francis Fortune Tegete	男	25	学生	AOT Iputi Health Centre	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2010年9月 ～ 2013年9月
Sr. M. Magreth Peter Nyamizi	女	29	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Dareda Nursing Training School	看護学・助産学	2009年9月 ～ 2012年9月
Ms. Hadija Yassin Mrisho	女	21	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
Ms. Devotha Tiho Mayombya	女	22	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年9月 ～ 2013年9月
Sr. Nyanzobe Christina Mathias	女	32	診療所受付	AOT Mwanzugi Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2009年9月 ～ 2012年9月
Mr. Mussa Ponda Mahela	男	30	学生	AOT Mwanzugi Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年6月 ～ 2011年8月
Mr. Dunstan Salu Mabala	男	30	事務	AOT Mwanzugi Dispensary	Bugando Medical Centre	臨床カウンセリング	2011年8月 ～ 2012年4月
Ms. Liberator Kabura	女	26	学生	AOT Ndala Hospital	Edgar Maranta School of Nursing	看護学	2009年9月 ～ 2012年9月
Sr. Christina Njendela Mapunda	女	31	学生	AOT Ndala Hospital	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2009年9月 ～ 2012年9月
Ms. Maria Simon Mnimbo	女	24	看護助手	AOT Ndala Hospital	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年8月 ～ 2013年8月

2. 海外諸活動

[2-3] 災害救援復興支援

(1) バングラデシュ・洪水被災支援

2011年7～8月、バングラデシュ南西部にあるジョジョール県、シャトキラ県、クルナ県では大きな洪水に見舞われた。地域は多大な被害を受け、2011年8月の時点で被災世帯は約18万世帯に上った。

JOCSは、2011年8月に現地NGO団体Uttaranの支援要請に応じ、緊急支援金として3,000ドルを送金した。この支援を受け、8月25日から9月24日にかけてUttaranによる救援活動が行われ、シャトキラ県タラ郡の200被災世帯に対して仮設テントが配布され、約80の仮設トイレが設置された。

(2) バングラデシュ・寒波被災支援

2011年12月からバングラデシュは記録的な寒波におそわれ、数日間で27人が死亡したとも報告された。この寒波は貧しい人々、とくに子どもと高齢者を直撃した。

JOCSは、2011年12月に現地NGO団体SHED Boardの支援要請に応じ、緊急支援金として2,000ドルを送金した。この支援を受けてSHED Boardでは、特に高齢者や障がい者など弱い立場にある家族に対し、240枚の毛布の提供を行った。

[2-4] 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）

（Project “LITTLE” = “Living together with the People”）

・BDP 学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）

今年は2010年度より開始されたバングラデシュの学校保健教育プロジェクトの2年目にあたる。今年度までを準備期間として、実際に授業を行う保健教育担当教員向けのトレーニング、カリキュラムや教材の準備などを行った。

今年度は、教員向けトレーニング（結核、HIV/AIDS、健康教育とその手法について等、6月6～8日）、思春期女子への講習会（思春期の体の変化や妊娠・出産について等、9月7日）を実施した他、カリキュラムや教材の作成、学校の井戸やトイレの維持管理、救急箱の設置と管理を行った。

来年度は実際に学校で保健教育の授業を開始する。



教員への講習会にて

3. 国内諸活動

[3-1] 国内活動全般

(1) 会員増強のための取り組み

会員の継続率を高めること、新入会員を増加させることを課題として、以下の取り組みを行った。

① 会員継続のための働きかけ

12月より、ホームページで、クレジットカードによる月々の自動引落の申し込みが可能となり、メールニュースや会報を通して、マンスリー会員を募集した。現在クレジットカードによる会費納入、及び寄付件数は123件（昨年より73%増）。

② 冬期募金趣意書を通じた入会の呼びかけ

50周年記念募金に引き続き、冬期募金の趣意書を通して会員を募った。これを機に、これまでご寄付をくださっていた方42名が、会員となってくださった。

③ 領収証発送時に、活動報告書を同封

公益社団法人へと移行したことにより、今年度から会費納入やご寄付のあった方全員を対象に、領収証を1月に発行することとなった。会報が届かない寄付者にも、JOCSの活動の様子が分かるよう、年間の活動のダイジェストと奨学生から届いた手紙をニュースレターとして同封した。次年度以降の寄付につながるように期待したい。

④ メールニュース

第106号から第132号まで発行、登録者は348名となった。

(2) 子どもを対象にした活動

2010年度の小島会長の「ワンコインつもり募金」の提唱を受け、国内活動委員会で子どもに対する取り組みに関して議論を重ねてきた結果、青山学院初等部をモデル校として、協働で取り組んでいくことになった。

① 青山学院初等部への講師派遣

毎年10月に行われる「となり人を覚える礼拝」に小島会長をお招きいただき、JOCSの活動などをアピールする機会をいただいた。全校生徒に途上国の子どもたちの様子や、JOCSの活動を紹介するとともに、今できることは何か、子どもたちへメッセージを発信した。

② ワークショップの開催

上記、講師派遣の同日と、前の週に宗教プロジェクトの生徒（小学校5・6年生、16名）を対象に「健康」をキーワードにしたワークショップを2回にわたって開催した。バングラデシュやタンザニアと日本の違いについて学び、健康を守るために必要なことを共に考える機会をもった。



ワークショップでの発表の時間

3. 国内諸活動

(3) ワーカー活動報告会

3名のワーカーが活動を終え帰国し、活動地の保健医療の現状や活動の成果、人々の暮らしなどについて報告した。主な訪問先は、学校・教会・保健医療施設。

- ・カンボジア派遣

諏訪恵子ワーカー：4月20日～7月19日 計30回

- ・バングラデシュ派遣

山内章子ワーカー：5月6日～8月5日

11月7日～11月16日 計42回

岩本直美ワーカー：12月5日～3月18日 計53回

なお、細井さおりワーカーは健康上の理由により報告会を実施しなかった。

(4) 地区 JOCS 活動

ー仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・四国高知 (播州・岡山)

2011年度中に開催された地区 JOCS イベントは以下のとおり。必要に応じて委員、理事、事務局が参加して支援を行った。また2011年11月26日に大阪聖パウロ教会・関西事務局で第7回地区 JOCS 全体ミーティングを開催し、各地区との意見交換の場を持った。

仙台 JOCS		参加人数
9月23日	地球フェスタに出店 (仙台国際センター)	-
12月17日	岩本ワーカーを囲む会 (仙台エマオ)	10名
足利 JOCS		参加人数
5月29日	諏訪ワーカー報告会 (足利市民会館)	19名
7月10日	山内ワーカー報告会 (足利市民会館)	17名
12月10日	足利市民クリスマス (足利市民プラザ)	250名
2月19日	岩本ワーカー報告会 (足利市民会館)	27名
町田 JOCS		参加人数
7月17日	諏訪ワーカー報告会 (カトリック町田教会)	30名
10月30日	チャリティバザーに出店 (カトリック町田教会)	-
12月17日	クリスマス食事会	8名
京都 JOCS		参加人数
4月9日	第8回京都 JOCS チャリティウォークソン (京都鴨川河川敷)	43名
7月23日	第33回チャリティコンサート (京都コンサートホール小ホール)	404名
大阪 JOCS		参加人数
6月11日	諏訪ワーカー報告会 山内ワーカー報告会 (大阪聖パウロ教会)	37名

1月28日	岩本ワーカー報告会（大阪聖パウロ教会）	39名
神戸 JOCS		参加人数
5月28日	諏訪ワーカー報告会（神戸栄光教会）	28名
2月4日	岩本ワーカー報告会（神戸イエス団教会賀川記念館）	-
芦屋 JOCS		参加人数
9月18日	乾ワーカー報告会（芦屋西教会）	105名
四国高知 JOCS		参加人数
5月21日	山内ワーカー報告会（中村栄光教会）	16名
5月22日	山内ワーカー報告会（高知教会）	33名
9月24日 ～ 9月25日	高知スタンプショウに出店（高知イオン）	-
2月11日	岩本ワーカー報告会（高知旭教会）	-
各地区合同		
11月26日	地区 JOCS 全体ミーティング 参加地区：京都、芦屋、大阪、四国高知、神戸、仙台、町田	25名

[3-2] ワーカー育成プログラム

(1) 海外保健医療協力セミナー

今年度は宿泊を伴わない2日間プログラムとして実施した。

日程：2011年6月18日（土）、19日（日）

場所：JICA 地球ひろば（東京都渋谷区広尾）

テーマ：私とともに生きてきた人々 ～人を支え、人に支えられる協力のあり方～

講師：諏訪恵子ワーカー（カンボジア、看護師）

山内章子ワーカー（バングラデシュ、理学療法士）

チャプレン：植松功氏（JOCS 前理事）

スタッフ：川口恭子（海外担当主事）、高橋淳子（担当）

参加費：社会人 4,000円、学生 2,500円（JOCS 会員は500円割引）

参加者：11名（女性9名、男性2名）

【学生5名（看護学部4、その他1）、医師3名、看護師1名、助産師1名、養護教諭1名】

【会員5名、会員以外6名】

内容：

- ① アイスブレイキング（他已紹介）
- ② ケーススタディ（山内ワーカー、諏訪ワーカーからそれぞれ事例紹介があり、それ

3. 国内諸活動

にどのように対応すればよいのか検討した)

- ③ ワーカー活動報告（山内ワーカー、諏訪ワーカー）
- ④ 南インド・スタディツアーの紹介
- ⑤ 祈りの時間

(2) 海外保健医療勉強会

今年度は勉強会を4回開催した。うち1回は帰国中のワーカーを講師として、2回は2011年3月に発生した東日本大震災をうけて災害時のメンタルヘルスに関する勉強会とした。また1回はフィールドでの一日勉強会として多磨全生園（東京都東村山市）で開催した。

勉強の機会の提供のみならず、参加者同士の交流の場ともなり、また、参加者にJOCSとのつながりを持ち続けてもらう場ともなった。

① 第1回

日時：2011年10月24日（月）18：30～20：30

場所：JOCS 東京事務局

参加者：合計16名（女性14名、男性2名）

【医師3名、会社員2名、学生3名、看護師2名、養護教諭1名、助産師1名、作業療法士1名、高校教諭1名、その他2名】【JOCS 会員7名、会員以外9名】

題名：災害におけるメンタルヘルス ―心理学的側面と精神科医療の関わり―

講師：森数美氏、白石仁美氏

内容：まず白石氏から、自身関わっている釜石での「心のケアチーム」の活動について触れながら、災害にあった方の心の状態、例えば悲嘆反応の過程や複雑化した悲嘆反応について、またケアの注意点などについて講義がなされた。また、被災者に対して効果的なコミュニケーションスキルについて、具体例を交えながら話した。次に森氏から、精神疾患とはどのような症状を指すのか、その要因とは何か、災害時に精神科的専門医療が必要なのはどのような人たちかなどについて講義がなされ、自身が東日本大震災の被災地である釜石市を訪問して感じたことなどを述べた。

② 第2回

日時：2011年12月9日（金）18：30～20：30

場所：JOCS 東京事務局

参加者：合計7名（女性5名、男性2名）

【医師2名、理学療法士・養護教諭・団体職員・郵便事業・看護学生 各1名】【JOCS 会員3名、会員以外4名】

題名：コミュニティづくり ―違いを共に生きる―

講師：岩本直美ワーカー

内容：以下について話した。

- ・ラルシュ共同体の成り立ちや理念、活動の様子について
 - ・共同体に住むメンバーの数人について、その生い立ちや生活の様子、岩本ワーカーがどのように関わり、どのように感じているのかについて
 - ・アシスタント数人の背景や仕事に対する姿勢などについて
 - ・バングラデシュでの障がいをもつ人や貧しい人の立場や暮らしについて
 - ・キリスト教とイスラム教との関わりについて
- 質疑応答では、「コミュニティをどうつくっていくのか、そのために何を大切にしているのか」「次期派遣では何を目指していきたいのか」など積極的な質問が出された。

③ 第3回

日時：2012年2月10日（金）18：30～20：30

場所：JOCS 東京事務局

参加者：合計4名（女性3名、男性1名）

【理学療法士・NGO職員・会社員・学生 各1名】【JOCS会員0名、会員以外4名】

題名：災害と惨事ストレス、支援者のケアの必要性 ―現場からの声として

講師：大江 浩（JOCS 総主事）

内容：国内外の緊急災害支援、東日本大震災などの現場で直面した諸課題のほか、自身が参加した、支援者のケアに関する取り組みが進む米国・サンフランシスコでの「災害とメンタルヘルス研修」での学びや気づきを分かち合った。また、震災のみならず、日常におけるトラウマ（心的外傷）体験とそのケアについて様々な事例を交えて話した。

④ 第4回

フィールド勉強会

日時：2012年2月26日（日）9時30分～17時

場所：国立療養所 多磨全生園（東京都東村山市）

参加者：合計13名（女性11名、男性2名）

【医師2名、看護師・看護教諭・養護教諭・看護学生・理学療法士・保健師各1名、NPO・NGO職員3名、その他2名】【JOCS会員7名、会員以外6名】

内容：多磨全生園内の秋津教会の礼拝に出席後、多磨全生園の松谷有希雄園長にハンセン病の特徴や日本での歴史、多磨全生園の成り立ちなどについてお話しいただいた。その後、国立ハンセン病資料館を見学した。最後に分かち合いの時をもち、参加者間で学びを共有した。

(3) 南インド・スタディツアー

日程：2011年7月29日（金）～8月7日（日）（10日間）

訪問地：クリスチャン・フェローシップ病院（CFH）（南インド タミルナードゥ州オダンチャトラム）

3. 国内諸活動

参加者：9名（看護学生3名、医師・看護師・薬剤師・牧師・教師・会社員各1名）

引率：川口恭子（海外担当主事）、大久保奈緒（職員）

内容：クリスチャン・フェローシップ病院を訪問する
スタディツアーは今年で7回目を迎えた。現地
では CFH の外来や病棟の見学の他、看護学校
の授業を聴講したり、看護学生寮を訪問したり
して、交流の時を持った。また CFH の関連施
設であるエイズホスピス、ボーイズホーム、



ボーイズホームを訪問した参加者の皆さん

CFH スタッフが地域の学校を訪問して行う保健
教育プログラムなどの見学もした。このスタディ

ツアーは、インドの医療事情を自分の目で見て学び、医療の現場に携わる人々の
熱意を感じることによって、これから国内外で働く参加者に広い視野を持った保
健医療従事者に育ってほしいという期待をもって実施されている。

[3-3] 東日本大震災被災者支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、JOCS では以下のような被災者支援活
動を行った。

(1) 宮城県仙台市

① 避難所での診療活動

避難所での診療活動を、榎戸健次郎ワーカー（医師）をはじめとした帰国中のワーカ
ーが中心となり、日本基督教団東北教区被災者支援センターに協力する形で行った（3
月下旬～4月中旬）。

② 被災者支援のためのスタッフ雇用サポート

地元主体が第一と考え、被災者支援を行っている日本基督教団東北教区被災者支
援センターを支えるために、東北教区センター・エマオのスタッフ（仙台 JOCS メンバー）
の人件費をサポートした。来年度も継続の予定である。

(2) 岩手県釜石市

① 避難所の夜間診療、巡回診療の実施

釜石地区の避難所（3カ所）の夜間および巡回診療を、
帰国中のワーカーや日本キリスト者医科連盟の協
力を得て行った。また、新生釜石教会前のテント張りの
街角保健室にて、オープンな形での被災者支援に取り
組んだ（3月下旬～6月）。



仮設住宅を訪問する看護師チーム

② 看護師チームの派遣

看護師チームを岩手県釜石に派遣し、仮設住宅や白浜地区
の孤立集落の在宅被災者のための訪問ケア活動など支援活動を行った。チームの受け

入れにはカリタス釜石（カトリック釜石教会）の協力を得ている。8月、11月、1月、3月に各1週間ずつ、JOCS 会員や元ワーカーを中心とした12人の看護師が活動した。来年度も継続の予定である。

③ カウンセラー派遣

カリタス釜石の「心のケア」チームに協力する形で、JOCS 会員であり元理事のカウンセラーを派遣し、教会および仮設住宅での傾聴活動などを行った。7月から毎月11日前後の数日間訪問しており、地元の要請を受け、ケアに関するワークショップにも協力している。来年度も継続して行う予定である。

(3) 福島県いわき市

支援活動実施の可能性をさぐるため、いわき市を訪問し関係者へのインタビューを行った。その結果、被災者支援活動を行っている団体スタッフに対する心理ケア、子どもを対象とした教会学校キャンプの開催、被災者生活支援活動への保健医療従事者の派遣などの案が考えられた。今後、その実施に向けて関係者と協議を進めていく。

(4) 福島県福島市

子どもたちの内部被曝量を減らし、将来の健康障害の発生を予防することを目的として、福島市の児童養護施設に、食品の放射能測定室を設置するための協力を行った。

<被災者支援募金報告> 募金総額：12,233,441 円

今年度使用した金額の内訳は、以下のとおりである。

活動地	金額
宮城県仙台市	877,760 円
岩手県釜石市	1,588,740 円
福島県いわき市	55,290 円
福島県福島市	987,000 円
その他	80,749 円
合計	3,589,539 円

残額 8,643,902 円は、2012 年度以降の活動に使用する。

[3-4] 広報

(1) 会報「みんなで生きる」

- ・2011 年度は7回発行。隔月発行とし、10・11月号と12・1月号の間に「子ども号」を発行した。8,000 部/月。
- ・A4 版・16 または 20 ページで編集し、会員・寄付者・一般へ送付した。
- ・アンケートの内容や広報改革タスクでの意見を委員会で検討し、紙面作りの参考にした。
- ・「みんなで生きる」の特集は、
4・5月号 パキスタンでの活動を振り返って…青木盛ワーカーを囲んでの座談会

3. 国内諸活動

- 6・7月号 第50回 JOCS 社員定期総会報告・募金報告
8・9月号 インタビュー タンザニアでの活動を振り返って…清水範子ワーカー
10・11月号 インタビュー バングラデシュでの第一期活動を終えて…山内章子ワーカー
子ども号 「ワーカーに聞いてみたよ。子どもたちのこと」
12・1月号 クリスマスメッセージ
2・3月号 誌上報告会 カンボジアの女性と共に…諏訪恵子ワーカー
とした。連載は、小島会長の巻頭言、恭子ディディの視点から、JOCS と私、ワーカーからの手紙、切手部通信、Kids JOCS、とまのこことば、総主事デスクから、である。

その他は、4・5月号に「JOCS 切手の日」に来たお便り、6・7月号から毎号東日本大震災被災者支援の記事、8・9月号から JOCS ホームページを案内する記事、8・9月号と2・3月号に奨学生の紹介、12・1月号に南インド・スタディツアー報告、2・3月号に学校保健プロジェクトの紹介を掲載した。

(2) ホームページ

2011 年度は、ホームページのレイアウトを大幅に見直し、必要な項目を探しやすくするように工夫した。またクレジットカードや銀行振込による募金や入会、会費継続などの支払いをホームページから行う仕組みを整えた。これにより、クレジットカードでの会費の分割払いができるようになった。

(3) 視聴覚資料

今年度の DVD 貸出依頼は、年間 13 件（うち 7 件は 50 周年記念 DVD）であった。50 周年記念 DVD は、ホームページのトップページから「YouTube」を通して視聴できるようになった。

(4) 出版物・マスコミへの掲載（付録参照）

- ・ 2011 年 4 月 1 日発行：信徒の友 4 月号
- ・ 2011 年 7 月 1 日発行：信徒の友 7 月号
- ・ 2011 年 10 月 1 日発行：信徒の友 10 月号
- ・ 2011 年 10 月 16 日発行：カトリック新聞第 4119 号
- ・ 2011 年 11 月 4 日発行：四国新聞オアシス Vol. 651
- ・ 2012 年 1 月 1 日発行：信徒の友 1 月号
- ・ 2012 年 1 月 15 日発行：すこーれボランティア通信第 34 号
- ・ 2012 年 2 月 1 日発行：信徒の友 2 月号
- ・ 2012 年 2 月 4 日発行：教団新報第 4741 号
- ・ 2012 年 2 月 7 日発行：北海道新聞（夕刊）
- ・ 2012 年 3 月 1 日発行：信徒の友 3 月号

(5) 広報改革タスク

2010年度に実施した会員アンケート結果をもとに決定した、2011年度に取り組むべき重要項目を、国内活動委員会、広報委員会、事務局担当者で確認した。11月に開催されたタスクでは、中間報告として各委員会・担当より達成項目や未達成の項目を振り返った他、今後の広報活動に関する意見を交換した。3月のタスクでは、重点項目で未達成であったもの、また再協議をすることとなったものを確認した。

広報改革タスクの目的であった、会員アンケート実施のための、アンケート内容決定、実施後のアンケート分析に基づく取り組みの決定、振り返りを終えたため、今年度で今回の広報改革タスクを終了した。

[3-5] 募金

今年度の募金協力件数は以下のとおり。心からの感謝をもって報告する。

2011年度	依頼数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	18,814件	2,502件	13.3%	約2,025万円
冬期募金	19,441件	5,897件	30.3%	約5,325万円
その他の募金	—	—	—	約1,240万円
東日本大震災被災地支援指定	—	—	—	約1,223万円
総計	—	—	—	約9,813万円

今年度は、東日本大震災の被災地支援のための指定寄付を4月末日まで募ったが、それ以降も多くのご寄付をいただいた。

夏期募金は例年通り「みんなで生きる」6・7月号に募金趣意書・払込用紙を封入する方法をとった。また冬期募金は、表紙でバングラデシュの学校保健プロジェクトの内容を紹介した他、昨年度に引き続き、会員募集の項目を加えた。

[3-6] 使用済み切手運動

2011年度の切手受託累計と本会計繰入額は、昨年度と比較し以下の通りである。

	2010年度	2011年度
使用済み切手受託件数	18,407件	18,303件
〃 受託量(kg)	13,057kg	12,990kg
〃 本会計繰入額	1,100万円	700万円

使用済み切手の受託は、この2～3年の間、微増と減少を繰り返しているが、全体的には減少傾向である。

3. 国内諸活動

外国コイン・紙幣の換金も切手と同じくらいの換金率なので、使用済み切手と併せて、収集に力を入れて行きたい。

今年度は、東京事務局で 21 名、関西事務局で 51 名のボランティアの方々が切手整理作業を手伝ってくださった。皆様のご協力に深く感謝申し上げたい。

切手タスク 2011 年度活動報告

- ① 「千里でお茶を…使用済み切手運動 10 周年記念イベント」
 - ・ 2011 年 10 月 18 日（火）大阪 YWCA 千里ホール
諏訪恵子元カンボジアワーカーによる活動報告、使用済み切手運動と JOCS の紹介（渋谷職員）、質疑応答と茶話会
- ② 札幌・室蘭での国際協力切手まつり
 - ・ 2 月 4 日（土）16：00～17：30 どさんこ海外保健協力会事務局
榎戸健次郎医師のお話、切手の話（森田職員）、質疑応答
 - ・ 2 月 5 日（日）15：00～16：30 日本基督教団 室蘭知利別教会
JOCS の紹介、JOCS50 周年記念 DVD 鑑賞、使用済み切手運動クイズ、榎戸健次郎医師のお話・質疑応答、チャイ試飲、写真パネル展示、手工芸品の販売
 - ・ 2 月 6 日（月）10：00～11：00（対象：園児、保護者） 室蘭めばえ幼稚園
使用済み切手収集紙芝居、榎戸健次郎医師のお話、切手チョコチョコキ体験、写真パネル展示
- ③ 山口での国際協力切手まつり
 - ・ 2012 年 2 月 24 日（金）～26 日（日） 防府市地域交流センター（アスピラート）
諏訪恵子元カンボジアワーカーによる活動報告、使用済み切手収集紙芝居、切手整理体験、JOCS 写真展

[3-7] JOCS 関西バザー

5 月 14 日（土）に第 17 回 JOCS 関西バザーを大阪聖パウロ教会にて開催した。「切手を持ってバザーに行こう」というキャッチフレーズが定着してきて、今回も使用済み切手が 13 キロ集まった。当日の来場者は約 360 名、当日ボランティア数は 60 名、収益は約 131 万円となった。

[3-8] 講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。帰国中のワーカーが報告会として対応をしたものを含め、問い合わせのあった以下の諸団体（26 ヲ所）に派遣した。

日本聖公会川越キリスト教会、千葉本町教会羔幼稚園、国際基督教大学附属高校、DSI 通訳ボランティア佐渡、明治学院東村山中学校、明治学院東村山高等学校、桃山学院大学国際教養学部、富士見ヶ丘教会夏期学校、日本聖公会石橋聖トマス教会、千葉英和高校夏期合宿、横浜保護観察所、神戸 YMCA、日本キリスト改革派神港教会、日本基督教団豊沢教会、青山学院初等部、日本 YMCA 同盟提供寄付講座（関西学院大学神学部）、フェリス女学院中学・高等学校、社会福祉法人賛育会、千葉英和高校、ILBS 国際福祉会、恵泉女学園中学・高等学校、同仁美登里幼稚園、土浦めぐみ教会附属マナ愛児園、横須賀市立看護専門学校、聖隷クリストファー大学キリスト教センター、蒲生教会、高知旭教会、堺川尻教会、大学女性協会大阪支部、大学女性協会京都支部

[3-9] 事務局見学受入

使用済み切手がどのように活用されているのか、JOCS はアジア・アフリカでどのような活動を行っているのか等を実際に事務局に来て学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れを行っている。東日本大震災の影響で、東北エリアの学校のキャンセルも相次ぎ、今年度は例年より受け入れ件数が少なかった。

＜東京事務局＞ （2 団体 15 名）

青山学院初等部、香蘭女学校バザー委員会

＜関西事務局＞ （5 団体 36 名）

大阪女学院大学、愛農学園、大阪昭和教会、大阪西ローターアクト、JICA 研修生

[3-10] 50 周年記念事業

（1） 50 周年記念誌

＜50 周年記念誌編集委員会＞

小澤英輔（委員長）、田村光三（監修）、阿部淳子（整理・校正スタッフ）、市川邦雄（制作／コイノニア社）、大江 浩（事務局）

JOCS50 周年記念誌は、記念誌出版委員会の全体構想案に基づき、各部・章・節ごとに分担執筆の形式で制作を進めている。同委員会は既に解散し、原稿の取りまとめ段階からは、上記の編集委員会と事務局が制作に携わっている。

この 50 周年記念誌はいわゆる「通史」ではなく、半世紀の後半部分、即ち『アジアの呼び声に応じて 日本キリスト教海外医療協力会 25 年史』（隅谷三喜男氏著、新教出版社）以降の約 25 年間（1986 年～）を主にカバーしている。

2012 年度社員定期総会での配布に向けて作業を進めている。

3. 国内諸活動

(2) チャリティ映画会

日時：2011年9月16日（金）

場所：日本橋公会堂（東京都中央区）

上映作品：日本映画「父と暮らせば」

来場者：昼の部 231名 夜の部 167名

JOCSの活動紹介を目的として、50周年記念DVDを本編の前に上映した（昼：「カシナマ ジュパン」 夜：「心をひらいて」）。企画段階から当日の運営まで多くのボランティアの方々の協力を得て実施することができた。

(3) 50周年記念スタディツアー

期間：2012年3月21日（水）～3月27日（火）（7日間）

訪問地：バングラデシュ チャンドラゴーナ、ダッカ

参加者：5名（看護教員2名、薬剤師1名、栄養学生1名、薬学生1名）

引率：高橋淳子（職員）

内容：チャンドラゴーナでは、宮川眞一ワーカーの受け入れの下、チャンドラゴーナ・キリスト教病院を訪問し、院内施設のほか地域保健プロジェクト、附属看護学校などを見学した。またダッカでは、JOCSが保健教育プロジェクトを行っている小学校を訪問し、子どもたちとの交流の時間をもった。現地の保健医療の実情を知り、また参加者間で分かち合いの時間をもつことによって、海外保健医療協力について学びを深めることができた。

(4) 「みんなで生きる」表紙写真展及び「1ルピーの贈りもの」絵本原画展

- ・ 2011年11月22日（火）～11月27日（日） 西宮市立北口ギャラリー（西宮）
受付ボランティア数13名、来場者245名
- ・ 2012年2月14日（火）～2月20日（月） みなとみらいギャラリー（横浜）
受付ボランティア数8名、来場者453名
- ・ 2012年3月24日（土）～3月30日（金） オレンジギャラリー（池袋）
受付ボランティア数12名、来場者207名

[3-11] ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター（JANIC）」「関西 NGO 協議会」「障害分野 NGO 連絡会（JANNET）」「カンボジア市民フォーラム」「開発教育協会」に加入している。関西 NGO 協議会では理事として運営に携わった。カンボジア市民フォーラムでは、世話人として運営の一端を担うほか、2ヵ月に1回のセミナー開催への協力やニュースレターの執筆をした。JANNET においては、各種報告会、勉強会への参加、ニュースレター執筆等の協力を行った。

また、国際協力を主たる事業とする公益法人の情報交換ネットワークに参加した。このネットワークは、JANIC 正会員のワーキンググループ「公益法人 NGO 連絡会」に発展した。当初は公的認定申請手続きに関する情報交換を主目的としていたが、認定取得後は、公益法人の健全な組織運営のための情報及び経験の共有等を行っている。

4. 運営会議

[4-1] 第50回社員定期総会

2011年4月29日（金・祝日）午後1時より、東京都新宿区の日本キリスト教会館にて、53名の社員の出席と296通の委任状を以って開催した。議事に先立ち、日野キリスト教会の加藤満牧師より「私たちの推薦状」と題して奨励をいただいた。議事は2010年度決算報告、定款の変更であり、両者とも承認・決議された。また議案審議の終了後には、公益社団法人への移行認定、2010年度事業報告、2011年度事業計画と収支予算について報告がなされ、また任期を終了し帰国していた青木盛ワーカー、諏訪恵子ワーカー、山内章子ワーカーより帰国挨拶と活動報告がなされた。

[4-2] 理事会

公益社団法人への移行に伴い、本年度より、理事会と常任理事会を一本化して新しい理事会体制となった。理事の定数を減らし、年11回の理事会を開催した。日程および会場は以下の通りである。

2011年	4月29日	東京事務局
	5月28日	東京事務局
	6月25日	東京事務局
	7月23日	東京事務局
	9月17日	東京事務局
	10月22日	東京事務局
	11月19日	東京事務局
	12月17日	東京事務局
2012年	1月21日	東京事務局
	2月18日	関西事務局
	3月17日	東京事務局

尚、今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

小島 莊明（会長） 畑野研太郎（常務理事） 大江 浩（理事・総主事）

4. 運営会議

川口恭子（理事・海外担当主事）	島田 恒（理事）	
高梨愛子（理事）	中 寫裕一（理事）	仁科晴弘（理事）
榛木恵子（理事）		
小澤英輔（監事）	辻本嘉助（監事）	

[4-3] 運営協議会

本年度より、理事会の諮問機関として中長期的な運営方針や事業のあり方を検討する運営協議会が発足した。本年度は以下のように2回開催した。

第1回 日時：2011年10月22日

場所：東京事務局

議題：JOCS全体の運営状況報告

各委員会から報告

ディスカッション 「新『今後5年間の方向性』について」

第2回 日時：2012年3月17日

場所：東京事務局

議題：JOCS全体の運営状況報告

学習会 「ラルシュ・バングラデシュについて」

「JOCSと共に歩んで」

発題 「バンコク会議とは～海外保健医療協力者会議2012に向けて」

理事、監事、事務局と以下のメンバーで開催した。（敬称略）

秋田公子、植松 功、宇山 進、大友 宣、影山隆之、佐藤 光、白石仁美、
土井直彦、柳澤理子

[4-4] 委員会

(1) 関西地区活動委員会

委員長：船戸正久

委員：大谷 透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田 恒、高谷泰市、畑野めぐみ、
船戸正久、和田 浩

列席者：中村満子（神戸JOCS）

- ① 委員会は2ヵ月に一度関西事務局で、年6回開催した。委員会の出席者は、上記の委員の他に、宇山進、関西在住理事の榛木恵子、監事の辻本嘉助と事務局の久家郁子、河野智恵、渋谷理香を加え、平均12名であった。
- ② 毎回委員会では、関西JOCS資金運用状況の確認、各地区JOCSの活動報告、募金報告、バザー、関西JOCSのつどいに関する協議・反省などを行った。

- ③ 特に「関西 JOCS2012」として、2012年1月22日に開催した関西学院院長のグルーベル先生の講演と Harlem JP Choir のミニコンサートを日本キリスト教団神戸栄光教会で開催した。当日は130名ほどの参加者があった。
- ④ 毎年恒例の JOCS 関西バザーは、2011年5月14日（土）に大阪聖パウロ教会で開催し、昨年同様ボランティアの方々のよき協力のおかげで入場者約360名。収益1,312,199円の内10万円を次回バザーの準備金とし、1,212,199円を JOCS へ寄付した。

(2) 奨学金委員会

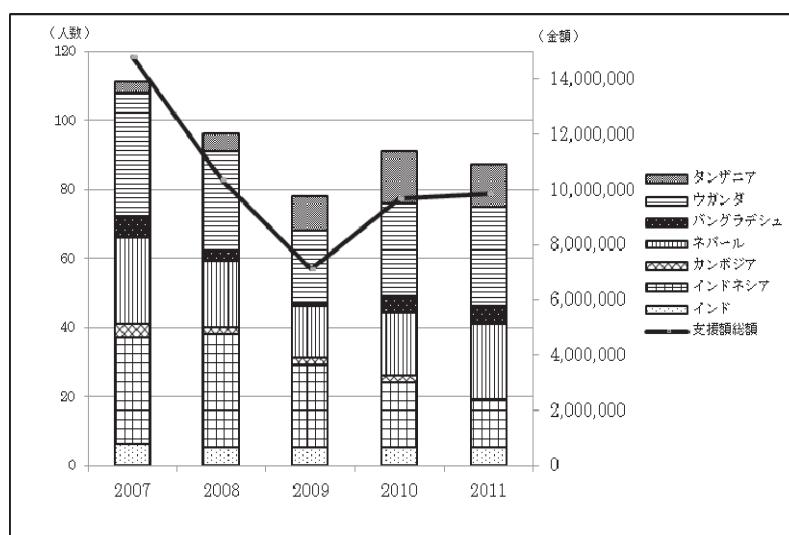
委員長：柳澤理子

委員：小宅泰郎、加輪上敏彦、長尾真理、細谷たき子、宮城航一、宮崎 雅

① 2011年度奨学金選考結果

対象国	2011年度後期		2012年度前期		支給決定者 合計
	希望者数	支給決定者数	希望者数	支給決定者数	
インド	0	0	0	0	0
インドネシア	6	4	0	0	4
カンボジア	0	0	0	0	0
ネパール	8	4	3	1	5
バングラデシュ	2	2	2	2	4
ウガンダ	25	6	14	4	10
タンザニア	8	3	6	5	8
合計	49	19	25	12	31

② 過去5年間の奨学生数と給付額の推移



③ その他

今年度は、奨学金制度の現状と課題について協議した。その結果、「今後も奨学金の予算は年間1,000万円を確保していく」「原則として、交通費や生活費の支給をなくし、学

4. 運営会議

費のみの支給とする」「原則として、学生からの申請は受け付けない」「当面、1年あたりの選考回数は2回とするが、今後の応募数の推移をみて、必要があれば再検討する」ということを確認した。

選考に関しては、2011年度予算1,000万円のうち7,750,848円は、前年度までに承認された奨学生への継続支給（研修が複数年に渡るため）にあてられた。従って、2011年度の新規決定額は2,249,152円であった。

近年は、応募数が承認数の2～3倍となる傾向が続いていたが、2011年度2回目（2012年度前期）の選考の際は応募数が減少した。交通費・生活費の支給をなくしたことの影響なのか、他の要因によるものなのか、今後も応募数の推移に注目する必要がある。

以前に比べ、インドネシア・インドからの申請数が減少してきた。過去の奨学金支援を通じて、病院スタッフの中にすでに元JOCS奨学生が多くなっているのかと推測されるが、今後も現地のニーズに合ったペースで支援を続けていきたい。

今年度のフォローアップは、ネパールで行った。関連団体本部や病院・看護学校などを訪問し、奨学生・元奨学生・関連団体の責任者と話し合うことができた。また、スタディツアーや職員の出張の機会を利用して、インドとバングラデシュでもフォローアップを行った。

奨学生の現状をより良く知る取り組みとして、今年度から、奨学生にクリスマスカードを送る際に、近況報告をお願いする手紙を添えたところ、インドネシア・ウガンダからの反響があった。今後も同様の働きかけを続け、会報等を通じて会員・寄付者の方々にも奨学生からの声を発信したいと考えている。

（3） 広報委員会

委員長：宇山 進

委員：柏木牧子、須賀真弓、西谷誠子

2ヵ月に1回のペースで6回のミーティングを持った。

① 「みんなで生きる」

今年度は7回発行（うち子ども号1回）。8,000部/月。詳細は[3-4] 広報（1）会報「みんなで生きる」（27～28ページ）参照。

② 「JOCS フォーラム」

2011年4月29日に第27号（全73ページ）を発行し、社員総会時に配布した。内容は、ブラザー・フランクからのメッセージ、ワーカー活動報告（樫戸健次郎ワーカー、清水範子ワーカー）、短期ワーカー報告（宮尾陽一ワーカー、乾眞理子ワーカー）であった。

③ 募金趣意書

夏期は、「みんなで生きる」6・7月号に趣意書と寄付金控除に関する説明書を挟み込み、会員・寄付者に送付した。また、冬期は11月より趣意書を一斉発送した。

④ ボランティアテック

今年度は3回ミーティングを開催した(6月、11月、3月)。50周年記念の活動として、「みんなで生きる」表紙展・絵本原画展を京都、西宮、横浜、東京で開催した。また、絵本『1ルピーの贈りもの』を増刷した。ボランティアフォトグラファの宇田川泰寛氏をタンザニアに派遣し、倉辻忠俊シニアワーカーの活動の様子を撮影した。

⑤ ホームページの活動

詳細は、**[3-4] 広報(2)「ホームページ」(28ページ)** 参照。

(4) 国内活動委員会

委員長：川崎 豊

委員：新井ななえ、有田憲一郎、小野志乃、高柳昌久、仁科晴弘、羽山直人

2ヵ月に1回のペースで委員会を開催した。昨年度から引き続き、子どもたちへのアピールについて話し合いを重ね、青山学院初等部の礼拝でのお話、また子どもたちとのワークショップを実施することができた。今後へつなげたい。

会員増強に関しては、今年度の委員会として具体的な実施内容を絞ることができなかったが、毎回の委員会で継続審議事項として話し合いを重ねた。

第7回地区JOCS全体ミーティング開催にあたり、実施場所、ミーティング内容等を検討し、実施した。

(5) 財務委員会

委員長：中寫裕一

委員：柏 明史、佐藤 光

公益社団法人への移行に付随するさまざまな財務・経理上の手当てを遺漏なきよう行うことが、今期財務委員会の重要課題であった。事務局担当者と協議しつつ、支障なく法人格移行を完遂することができた。

毎回の財務委員会では、事務局より財務状況報告や募金状況報告を受けている。また、年度後半には決算見込みを確認の上、次年度事業計画および予算案を精査している。

これら通常の議事の他、主な協議事項は以下の通りであった。

- ・会計規程改定案協議／ワーカーおよび職員の給与規程・家族手当の検討／事務所取得資金規程改定案協議
- ・今後10年間の財政見通しと事業の諸課題／公益認定に伴う公益目的保有財産について／奨学金の財源について／大口寄付への働きかけ
- ・東京事務局移転に関わる諸費用について／寄付金の税額控除制度について／アジア学院学校債について

法人格変更に伴い、規程の整備や検討を行っている。本会は多くの方々の支援により活動を展開しており、財務の透明性や健全性は強く要求される場所である。また、税制上の優遇措置については、さらに制度変更により寄付者の皆さまがより大きな所得税還付を受けられることとなった。JOCSの高い公益性が認められたゆえであり、JOCSへのご寄付

4. 運営会議

を促す契機となるものである。ふさわしい呼びかけとあわせて、ていねいに周知したい。

単年度の決算では、ここ数年、収支差額 2,000 万円超（赤字）が発生している。必要な活動を長期的に安定して継続、展開することが第一である。収入確保と支出抑制により、赤字幅を確実に一定枠内でコントロールすることが常に重要な課題である。

（6） ワーカー育成委員会

委員長：大友 宣

委員：田代順子、土井直彦、野崎威功真、山 嘉信、山本眞美子

今年度は委員会を 3 回開催し、参加者に合わせ適宜スカイプを利用した。その他メンバーリストを活用して随時協議を行った。海外保健医療協力セミナーは、今年新しい試みとして宿泊を伴わない形式で実施した。その他、南インドへのスタディツアー、海外保健医療勉強会を実施した。詳細は[3-2] ワーカー育成プログラム(23~26 ページ)を参照。

今後も、海外医療協力に関心のある人がより多く参加できるように多様な機会を提供していきたい。

（7） ワーカー派遣委員会

委員長：植松 功

委員：石井光子、石田 武、内坂 徹、大友 宣、小宅泰郎

今年度は委員会を 1 回開催した。志願書を提出したワーカー志願者がいなかったため、ワーカー志願者の面接は行われなかった。ワーカー派遣要請が 1 件提出されたため、それについて検討した。

派遣候補地の開拓については今期の委員会では行わなかった。今後、派遣委員会で検討すべき内容について討議した。

[4-5] 公益社団法人への移行手続き

2011 年 3 月 23 日に内閣総理大臣より新しい公益法人制度にもとづく公益認定を受けたことを受け、2011 年 4 月 1 日に、「公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会」への移行登記を行った。新理事会体制のもと、新しい定款及び各種規程を施行し、公益社団法人としての歩みを開始した。

公益社団法人への移行に伴い、4 月 1 日以降、当会への寄付については税制上の優遇措置（寄付金控除）が受けられることとなった。さらに、2011 年 8 月 23 日には、税額控除のできる要件を満たしているとの証明を受け、多くの個人支援者の方は、より大きな金額の所得税の還付を受けられるようになった。

[4-6] 今後5年間の方向性策定

2005年度に定めた「今後5年間（2006年～2010年）の方向性」を見直し、新しい方向性を策定するため、新5年間の方向性策定タスクチームを設置した。チームメンバーは次のとおりである（敬称略）。

大友宣（チームリーダー）、植松功、高梨愛子、仁科晴弘、宮崎雅、大江浩、川口恭子、名取智子

タスクチームで「今後5年間（2006年～2010年）の方向性」を見直し、新しい方向性（案）を策定し、理事会に提出した。理事会及び運営協議会での議論をふまえて再度見直し、最終案を理事会に提出し、承認された。具体的なアクションプランは、2012年度に協議する。新しい方向性は、2013年から2017年までとし、2012年までは現在の方向性にもとづき活動していくこととした。

[4-7] 評価

(1) 活動終了前レビュー

以下のワーカーの任期終了に先立ち、終了前レビューを行った。

・岩本直美ワーカー（第四期） 2011年6月 レビューアー：植松功

(2) ワーカー自記式アンケート

各任期の1年目、2年目終了時に行う自記式アンケートを以下のワーカーに行い、回答を理事会で検討した。

・宮川眞一ワーカー 2年目（第二期） 2011年9月

・倉辻忠俊シニアワーカー 1年目 2012年1月

5. 事務局

<総主事 大江 浩>

2011年度の主な事務局の動きは下記の通りである。

第1に、最大のトピックは2011年4月より「公益社団法人」としてスタートができたことである。準備開始から4年を要したが、3月23日に認定の交付を受け、ちょうど年度の区切りと合致したことが大変有難かった。認定申請に際し、公益認定NGO連絡会を通じて得られた実務的な情報が有益であったことも感謝している。新法人移行に伴い税の優遇措置が受けられる団体となり、領収書の一斉発送など事務処理上の新しい仕組みづくりへの対応を行った。

第2に、もう一つの大きなトピックは、東京事務局の移転である。日本キリスト教会館

5. 事務局

には40年近くお世話になり、西早稲田のキリスト教コミュニティとの関係が深い土地ではあったが、8月21日に新事務所へ移転した。東京事務局の移転は、東日本大震災及びその後の余震が続いた状況下で、ボランティア・職員の日々の働きのためには、入居する建物の安全確保が第一であると理事会が判断した結果である。

第3に、4カ国8名のワーカー（シニア・短期・ファーロー期間中含む）の派遣へのサポートに加え、上半期は山内・諏訪両ワーカーの報告会のために連絡調整と対応を行った。奨学金支援は、6カ国86名であった。ネパールの奨学生のフォローアップを実施した。新法人移行に伴う将来の奨学金支援の資金額を鑑み、今一度事業方針を確認した。奨学金申請数は2011年度後期までは拡大傾向が続いていたが、効率的な事業運営を考え、年間の申請回数などの見直しを行っている。“Project LITTLE”/バングラデシュの学校保健教育は2年目を迎えた。スタッフ主導による現地協力団体との協働プロジェクトとして、スタッフが何度か現地へ出張しつつ進めており、少しずつ軌道に乗り始めている。

第4に、国内活動のトピックとしては、「子どもたちとのつながりを強めるプログラム開発」（国内活動委員会所管）のため、青山学院初等部との協働（礼拝協力やワークショップ実施など）が始まったことである。

第5に、2010年度に発足した「広報改革タスク」では、会員対象（退会者を含む）アンケートの結果分析に基づき、広報や会員増強につながる提案を行った。

第6に、50周年記念事業としては、主に3つ、①チャリティ映画会「父と暮らせば」、②「みんなで生きる」表紙写真展&「1ルピーの贈りもの」絵本原画展（協力：ボランティアテック）、③バングラデシュ・スタディツアーを行った。

第7に、東日本大震災への支援は、現地事務所や駐在スタッフを置かずに、東京事務局が調整役を担い、活動を続けることができた。ご奉仕ご協力くださった全ての方々や関係諸団体（教団東北教区センター・エマオ、仙台JOCS、新生釜石教会、カリタス釜石、日本キリスト者医科連盟など）に厚くお礼を申し上げたい。

第8に、11月25日に、国際協力NGOセンター（JANIC）主催のアカウントビリティセルフチェックテストという組織の自己診断テストを受け、40点（41点満点/組織運営・事業実施・会計・情報公開の4分野）という結果で認証を得ることができた（JANIC加盟97団体中49団体が認証を得ている。2012年2月1日現在）。

第9に、私たちの日常業務を、切手ボランティアあるいは事務ボランティアとして支えてくださっている東西合わせて72名の方々に、深く感謝申し上げたい。

最後に、2011年度は新法人としての新年度開始と大震災への支援が重なる幕開けとなり、慌ただしい一年だったが、会員の方々のご理解ご協力のうちに無事終えることができ、心からお礼申し上げる。

6. 一般会員・社員会員の現状報告

2012年3月31日現在

社員会員	442名
一般会員	4,132名
合計	4,574名

2011年度中の社員会員、一般会員の異動

1. 社員会員

(1) 新しく社員会員となられた方	17名
(2) 社員会員を辞し、一般会員となられた方	6名
(3) 退会された方	17名

2. 一般会員

(1) 新たに入会された方	119名
(2) 退会された方	294名

7. 2011年度の主な動き

4月

- 1日 公益社団法人登記
- 9日 京都 JOCS チャリティウォークソン（鴨川河川敷）
- 14日 宮尾陽一短期ワーカー タンザニアより帰国
- 29日 第50回社員定期総会（日本キリスト教会館）
- 29日－5月1日 浅草スタンプショウに出店（都立産業貿易センター台東館）

5月

- 14日 JOCS 関西バザー（大阪聖パウロ教会）
- 22日 四国高知 JOCS のつどい（高知教会）
- 28日 神戸 JOCS のつどい（神戸栄光教会）
- 29日 足利 JOCS のつどい（足利市民会館）

6月

- 1日 乾眞理子短期ワーカー バングラデシュに赴任
- 1日－13日 川口恭子海外担当主事 バングラデシュ出張
- 6日－16日 植松 功氏 岩本直美ワーカーの活動レビューのためバングラデシュ出張

7. 2011年度の主な動き

- 11日 大阪 JOCS のつどい (大阪聖パウロ教会)
- 18日-19日 海外保健医療協力セミナー (JICA 地球ひろば)
- 7月
 - 9日 南インド・スタディツアー事前勉強会 (東京事務局)
 - 10日 足利 JOCS のつどい (足利市民会館)
 - 23日 京都 JOCS チャリティコンサート (京都コンサートホール小ホール)
 - 29日-8月7日 南インド・スタディツアー
- 8月
 - 21日 東京事務局移転
 - 26日 乾真理子短期ワーカー バングラデシュより帰国
 - 31日 諏訪恵子ワーカー退職
- 9月
 - 1日 細井さおりワーカー 活動終了、ネパールより帰国
 - 5日-12日 高橋淳子職員 バングラデシュ出張
 - 14日 榎戸健次郎短期ワーカー ネパールに赴任
 - 16日 50周年記念チャリティ映画会 (日本橋公会堂)
 - 18日 芦屋 JOCS のつどい (芦屋西教会)
 - 24日-25日 高知スタンプショウ (イオンモール高知)
- 10月
 - 1日-2日 グローバルフェスタ JAPAN に出展 (日比谷公園)
 - 2日 青木盛ワーカー派遣祝福式 (カトリック北町教会)
 - 4日 青木盛ワーカー パキスタンに赴任 (第二期)
 - 5日 乾真理子短期ワーカー バングラデシュに赴任
 - 15日-16日 広島スタンプショウ (広島県立産業会館)
 - 24日 海外保健医療勉強会 (東京事務局)
 - 31日 榎戸健次郎ワーカー ネパールでの活動終了
- 11月
 - 17日-25日 大久保奈緒職員 バングラデシュ出張
 - 21日-12月15日 川口恭子海外担当主事 バングラデシュ出張
 - 22日-27日 「みんなで生きる」表紙写真展・絵本原画展
(西宮市立北口ギャラリー)
 - 25日 岩本直美ワーカー 第二期活動終了、バングラデシュより帰国
 - 26日 地区 JOCS 全体ミーティング (大阪聖パウロ教会)
- 12月
 - 9日 海外保健医療勉強会 (東京事務局)
 - 10日 足利市民クリスマス (足利市民プラザ小ホール)
 - 22日 関西ボランティア・クリスマス会 (関西事務局)

- 30日 乾真理子短期ワーカー バングラデシュより帰国
- 1月
- 8日 山内章子ワーカー派遣祝福式（日野キリスト教会）
- 10日 山内章子ワーカー バングラデシュに赴任（第二期）
- 22日 関西 JOCS 2012（神戸栄光教会）
- 23日 東京事務局ボランティア新年会（東京事務局）
- 28日 大阪 JOCS のつどい（大阪聖パウロ教会）
- 2月
- 4日 神戸 JOCS のつどい（神戸イエス団教会賀川記念館）
- 4日－6日 国際協力切手まつり in 札幌・室蘭
- 10日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 11日 四国高知 JOCS のつどい（高知旭教会）
- 14日－20日 「みんなで生きる」表紙写真展・絵本原画展
（横浜・みなとみらいギャラリー）
- 20日 東西合同スタッフミーティング（東京事務局）
- 22日－3月3日 森田真実子職員 ネパール出張
- 24日－26日 国際協力切手まつり in 山口
- 26日 フィールド勉強会（多磨全生園）
- 3月
- 2日－10日 ボランティアフォトグラファ・宇田川泰寛氏 タンザニア訪問
- 21日－27日 50周年記念バングラデシュ・スタディツアー
- 24日－30日 「みんなで生きる」表紙写真展・絵本原画展
（池袋・オレンジギャラリー）